



本日はよくお参り下さいました

残暑お見舞い申し上げます。8月9日・10日の例大祭はが皆さまのご協力のもと、厳肅に盛大にとり行われました。台風11号の影響があったもののお神楽も神輿渡御も中止することなく当初の計画通り催行することができました。皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。どうもありがとうございます。季節はもう秋。秋といえばお彼岸や秋の七草が思い浮かびますが、秋の七草は食わずに鑑賞して楽しむものです。しかもなんとなく覚えにくいですよね。少し調べてみると、覚えやすい順番があったのでご紹介しておきます。今月も皆様が健康で充実した日々をお過ごし頂けますようお祈り申し上げます。(道子)



秋の七草

覚え方♪

(5・7・5調)
ハギ・キキョウ / クズ・フジバカマ / オミナエシ / オバナ・ナデシコ / 秋の七草

9月

1日月首祭 月の初めの恒例祭祀。

8日十五夜 旧暦8月15日は中秋の名月と呼ばれ全国各地で名月にスキや団子をお供えしてお祝いする行事が行われます。必ずしも満月ではないのですが、秋草や虫の音、夜露や涼風など風物のたたずまいが引き立て役となりこの時期が一年で月が最も澄んで美しいとされています。

15日 敬老の日 多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。この日は聖徳太子が不幸なお年寄りや病人を救うための施設を設立した日とされています。



月次祭 月の半ばの恒例祭祀。

20日 彼岸入り 20日～26日までの彼岸初日。

23日 秋分の日 祖先を敬い亡くなった人々を偲ぶ。

彼岸の中日 秋分の日とその前後3日間を彼岸といいます。春分の日と同じく先祖の霊を祭る行事です。秋分の日には彼岸の中日、宮中では秋季皇霊祭という神道式の祖霊祭祀が行われます。この期間は、亡くなった人々や祖先をしのび、供養するために墓参りをするのが習わしです。

26日 彼岸明け 彼岸最終日。

日本神話の世界 全十一回

第6回「誓約(うけい)・天の岩屋戸」

亡き母の国に行きたいと駄々をこねた須佐之男命は、高天原からの追放を言い渡されます。しかし、須佐之男命は姉に暇乞いをと考え、天照大御神に会いに行きますが、荒々しい言動のため、国を奪いにきたのではと、誤解を受けます。▼そこで潔白を証明するため「誓約(うけい)」をします。誓約とはあらかじめ決めし事をしておいてその結果によって神意を占う方法です。この誓約により、須佐之男命の持ち物から五柱の男神が生まれ、天照大御神の持ち物から三柱の女神が生まれます。▼



須佐之男命は、「わが心が明るく清いからたおやかな女の子が生まれた。だから私の勝ちだ」と言って、勝ちに任せていたずらを繰り返しました。須佐之男命の悪戯、特に水田耕作の妨害や神事を冒瀆する行為は、天照大御神を悲しませ、ついに岩戸にお隠れになってしまいました。▼すると真の暗闇になり、いつまでも夜が続きます。さまざまな災いが起こって、秩序は崩壊し、日常生活ができなくなりました。困った八百万の神々は、額を集めて相談を重ね、知恵の神である思金神(おもい

かねのかみ)に打開策を求めます。▼そこで岩戸の前にお櫛を立て、八尺(やさか)の勾玉、八尺の鏡、紙垂(しで)を付け、祝福の祝詞を奏上し、賑やかなお祭りがはじまりました。天宇受売命(あめのうずめのみこと)は、その前で神楽を舞います。その最中に天宇受売命は神がかりして、裸になって踊りました。八百万の神々はいちどきに大きな声をあげて笑いました。▼不思議に思われた天照大御神が戸を細めに開けて見たとき、すかさず鏡を差し出してお顔を映させました。ますます不思議に思われた大御神が身を乗りだすと、脇に隠れていた力の強い手力男神(たぢからのおみこと)がおの(みこと)が手を引き、外に連れ出しました。すると天地が自然と明るくなり、秩序が回復し平穏な日常に戻ってきたのです。▼天照大御神が岩屋戸にお隠れになったのは、須佐之男命の横暴が原因でした。須佐之男命はとうとう高天原から追い出されてしまいました。こうして須佐之男命の冒険の物語 『八俣の大蛇(やまたのおおろち)』へと続いていきます。参考文献『神話のおへて』神社本庁監修 扶桑社発行 / 『現代語古事記』竹田恒泰著 佛学研パブリッシング発行